

平成 23 年度アライグマ防除モデル事業の調査概要について(速報) (お知らせ)

平成 24 年 3 月 6 日 (火)
環境省長野自然環境事務所
所長 安田 直人
〔担当〕
野生生物課 小林真知子
(電 話 026-231-6573)

特定外来生物のアライグマは、全国的に生息域が拡大しており在来種の捕食や農作物への被害など深刻な問題を引き起こしています。長野県でも目撃情報等が寄せられるようになってきており、今後の被害拡大を防ぐためには詳細な生息情報を把握するとともに得られた情報を地域で共有して被害防止のための対策を検討する必要があります。

今年度、環境省長野自然環境事務所では、長野県と連携を図りながらアライグマの生息状況確認等の調査を実施し、その結果がまとまりましたので、速報としてお知らせします。

1. 目的及び調査の概要

(1) 目的

平成 21 年度に長野県農政部が実施した「長野県におけるアライグマ及びハクビシンのアンケート調査報告書」によると、県内 78 市町村のうち 29 の市町村でアライグマの生息情報が寄せられている(図 1)。今年度の調査では、今後の被害拡大を防ぐために、これらの生息情報のある地域等において、長野県と連携して県内のアライグマの詳細な生息情報を把握するとともに、得られた情報を共有し地域に応じた被害防止のための具体的な計画を検討することを目的とした。

(2) 調査の概要

① 生息状況の確認及び防除の検討

過去の聞き取り調査などで生息情報が得られている上田市・諏訪市・南木曾町・平谷村・根羽村の 5 地域においてより確度の高い情報を確認するため、聞き取りを含めた現地調査を実施。

② 普及啓発のための説明会の開催

①により確度の高い生息情報を得られた地域において、アライグマ及び防除に関する意識を高めるため、長野県の関係機関と連携して説明会等の実施を検討。

③ 周辺県とのアライグマの生息状況等に関する情報共有

長野県は 8 つの県と隣接しており、岐阜県や群馬県との県境などでも生息情報があることから、隣県の現状を知り、隣接する地域の意識を高めることを期待して、今後の防除を効果的に実施するために周辺県とのアライグマの生息状況等に関する情報共有を長野県と連携して実施。

2. 調査結果の概要

(1) 生息状況の確認及び防除の検討

過去に生息情報が得られている1.(2)①の5地域にその周辺6地域(岡谷市、茅野市、下諏訪町、飯島町、阿南町、大鹿村)を加え11市町村で聞き取りを行い、爪痕や毛、足跡などの痕跡調査を約70カ所で実施した(図2)。調査実施カ所のうち74%にあたる51カ所に痕跡(アライグマだけでなくハクビシン等を含む)が認められ、このうち43カ所が寺社や廃屋などの建造物であった。こうした痕跡から更に確度の高い情報を得るため、7市町村(南木曾町、平谷村、根羽村、岡谷市、下諏訪町、飯島町、阿南町)の寺社や畑、林内等にカメラを設置したところ、根羽村の畑に設置したカメラにアライグマが複数頭撮影され、この地域で複数生息することが明らかとなった。なお、その他の市町村に設置したカメラではタヌキやハクビシンなどその他の動物は撮影されたもののアライグマは撮影されなかった。また、これまでに中野市、軽井沢町、阿南町、平谷村、根羽村、南木曾町で捕獲されたことが写真や捕獲個体により確認された(図3)。

(2) 普及啓発のための説明会の開催

アライグマに対する意識を高めてもらうため、長野県が実施した「野生鳥獣被害対策チーム会議」の中で長野県内のアライグマの生息状況についての報告を行った。今後長野県庁や地方事務所の協力を得ながら説明会を実施する予定。

(3) 周辺県とのアライグマの生息状況等に関する情報共有

長野県との共催により平成24年2月8日(水)に「アライグマ防除に関する意見交換会」を県長野合同庁舎において開催した。

●北海道大学大学院教授 池田透氏による講演

「アライグマ対策におけるネットワーク化と情報共有の意義」

北海道において20年以上アライグマ対策に携わって来られた経験から情報の蓄積と共有の必要性などについて説明していただいた。

●隣接している県での生息状況や取組等の報告

愛知・岐阜の両県から資料提供を受け、また、群馬・山梨両県からは資料提供及び担当者による各県の生息状況や取組に関する報告が行われた。群馬県では生息状況調査や捕獲奨励金の支出などを実施しており、山梨では県として防除実施計画を策定し計画に基づく防除事業などを実施している。

●意見交換

講演及び各県の取組についての質問や今後の取組方法などについての意見交換が行われた。その中で近隣県等の情報共有及びネットワーク化の重要性について共通の認識を得ることができ、今後も意見交換会を継続して実施していくことが有効とされた。

3. 今後の方針について

長野県におけるアライグマの生息状況に関しては、現時点では散発的かつ低密度であり侵入初期の段階であると考えられるが、今後の増加を防いでいくために戦略的な捕獲等が必要となる。長野自然環境事務所では、今年度の調査結果を踏まえ、一般市民の方への普及啓発や隣接した県との連携体制も含め、効果的な防除体制や防除手法の検討など、各地域での防除等を適切に進めていくための支援を長野県と連携しながら進めていきたいと考えている。

今回の調査において、詳細な聞き取り等によって新たな情報を得られた場所もあったことから、地域における目撃情報等の提供が非常に有効と考えられる。長野県自然保護課では、昨年度作成し市町村等に配付した、特定外来生物に関するパンフレットの中で、情報提供を呼びかけており御協力をお願いしたい。

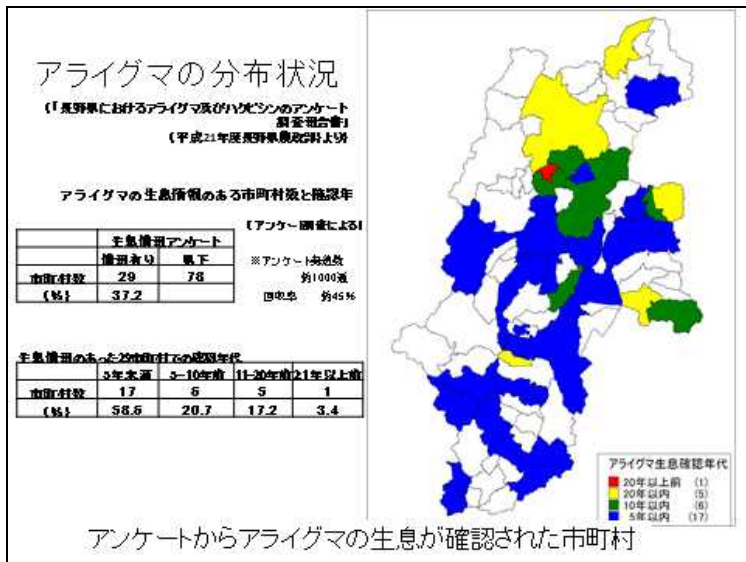


図1 アンケートに基づくアライグマ生息情報
（出典：「長野県におけるアライグマ及びハクビシンのアンケート調査報告書」H21 長野県農政部）

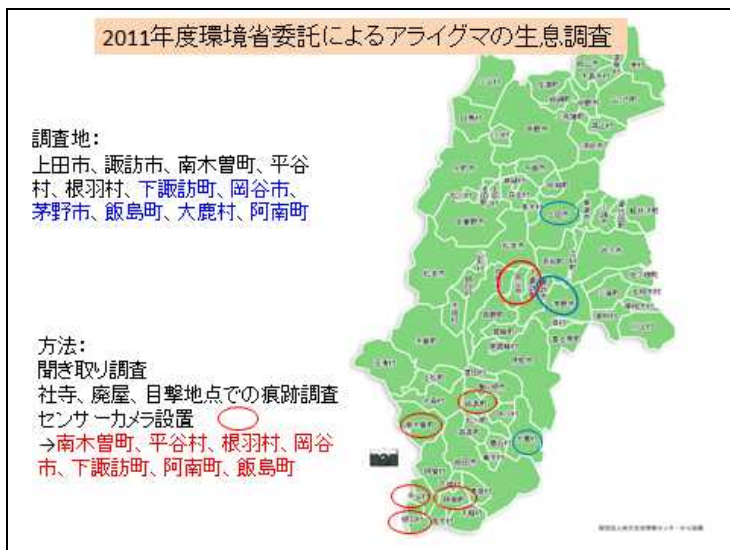


図2 アライグマ生息状況調査対象地



図3 アライグマ捕獲等の情報